令和８年度

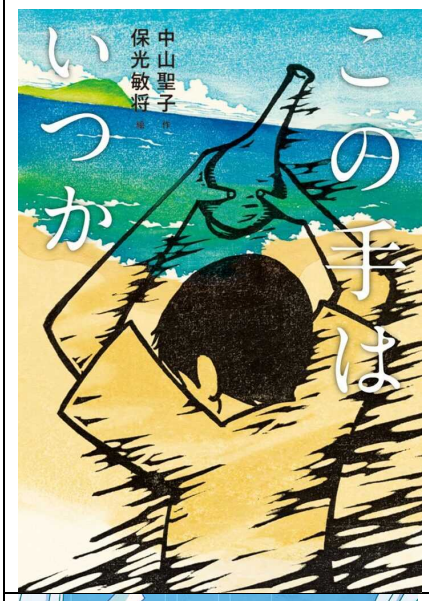
茨城県優良図書紹介【小学校高学年向け】



『Q 世代塾の問題児たち』

石川宏千花/作　みずす/絵（理論社）

差別を感じたことはありますか？先入観で人を見てしまうことはありますか？それが気になったらＱ世代塾をのぞいてみてください。Question（疑問）にびん感な人たちの中で自分の考え方に変化が出てきます。



『この手はいつか』

中山聖子/作　保光敏将/絵（文研出版）

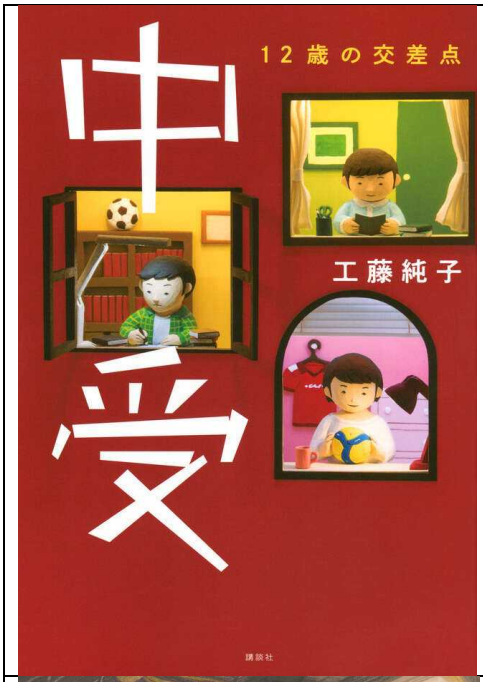
「ぼくは将来、ちゃんとした大人になれないのだろうか。」自分の気持ちを言葉にできず学校で暴れた真潮（ましお）。祖父との生活の中で真潮のかたくなな心がほぐれていきます。前向きな温かい気持ちになれる一冊です。



『読書感想文が終わらない!』

額賀澪/作　ｓａｔｓｕｋｉ/絵（ポプラ社）

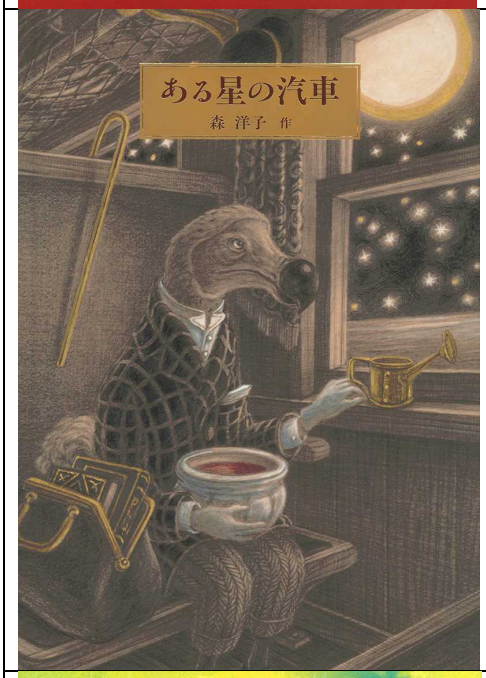
自分の心に抱えているものを本の感想にのせて表に出すことで向き合うことが出来るということを教えてくれます。読書感想文を書くとは何かを教えながら、自分の心とも向き合う様々な角度からの物語です。



『中受　12歳の交差点』

工藤純子（講談社）

中学受験とは何か、なぜ勉強をするのか、自分の心との葛藤がえがかれていて、改めて考えさせられる内容です。子ども達が何を考え、親はどう支えるのでしょうか。ぜひ保護者の方にも読んでほしい一冊です。



『ある星の汽車』

森陽子（福音館書店）

「ゴトゴト」「シュッシュッシュッ」沢山の動物たちを乗せた電車は何処へ向かって走っているのでしょうか。この本は少し悲しく、美しい物語です。



『春の雨にぬれて、獅子はおどる』

岳明秀/作いとうあつき/絵　（講談社）

東京から山あいの村へ引っ越してきた主人公が、周りからの「男とは」「女とは」という価値観に向き合いながらも、自分のやりたいことを主張し、田舎と都会の環境の違いや伝統芸能における性別の壁を考えます。主人公の心の揺れをみずみずしく描いた美しい作品です。



『ランドリーの迷子たち』

シャネル・ミラー/作　ないとうふみこ/訳

（ほるぷ出版）

ニューヨークくつした探偵団が迷子のくつ下の持ち主をさがし歩きます。持ち主を見つけることはその人の人生を知ること。時には差別に心を痛め、時には友達とけんかもし…。愛がいっぱいつまった温かいお話です。



『日下部くんには日傘が似合う』

神戸遥真/作　ぽん豆゜/絵（あかね書房）

自分に正直になるのは案外むずかしい、みんなにどう思われるか気になるし…かわいい日傘をさす日下部くんがそんな気持ちに向き合うきっかけをくれます。自分らしさを大事にしたい人へ。



『ポジション!』

高田由紀子/作　丹地陽子/絵（岩崎書店）

バスケットボールを軸にそれぞれの視点から物語が進んでいきます。

それぞれの思いや環境と向き合いながら、自分自身を見つめ、自分の「ポジション」について自分なりの答えを模索する姿にきっと共感できる一冊です。



『おれたちはギロンする』

安田夏菜（静山社）

ギロンとは「議論」のこと。陽太は、ひょんなことから芽衣とギロンすることになります。自分の意見を理路整然と述べて陽太を論破するのに、ギロンの目的は勝ち負けではないと言う芽衣。ではギロンの目的は何？



『ミクとオレらの秘密基地』

真栄田ウメ/作　カシワイ/絵　（岩崎書店）

笑わない転校生の女の子ミクを笑わせてヒーローになるつもりだった岩(がん)ちゃんと芝(しば)やんが、ミクのおかげでハシビロコウを見つけたヒーローになります。「こんな友達関係いいな」と素直に思えます。



『ぼくへのレファレンス』

岩崎まさえ/作　黒須高嶺/絵　（国土社）

市民図書館の金庫で古文書を見てから、リョウの周りでは不思議なことが起こります。着物姿の男の子にたのまれたレファレンス。男の子のメモと言葉がつながる先に、変えられない真実が待っています。